

ユニバーサル便り

～ユニバーサル農業の実践を通じた地域の中の農福連携～

発行：風の森ファーム&ユニバーサル農業研究会@ふくろい

1. 風の森ファーム近況

2020年秋も深まり「風の森ファーム」では、三本柱であるブドウ、藍、シイタケに関わる活動を引続き行っています。さらにこうした活動を通して、またこのニュースレターの発行や配布によって、地域との関わりを深めていきたいと考えています。今回の第3号では各活動の進捗状況や、特にこれから目指そうとしている藍染めを中心とした「6次産業化」の試みについてもご紹介します。

2. 藍の栽培と6次産業化

今年も藍の栽培は順調に進み、風の森の利用者さんやスタッフ、地域の人たちを対象にして、藍の葉のもぎりや藍染め体験会を実施しました。また藍染めに使う「すくも」作りにも挑戦しています。これからは藍染めにとどまらずに、機織りや布製品の製作や製品の販売も視野に入れて活動を進めていきたいと考えています（「6次産業化」については、今月のコラムもご覧ください。）



藍の栽培と6次産業化のイメージ図

3. ブドウの収穫と販売、その後



前回ご報告しましたように、「風の森ファーム」で栽培しているブドウの受注販売を行いました。写真のようにプラスチック容器に詰めて、大（250g）300円、小（100g）100円で、好評のうちに完売しました。ありがとうございました。利用者さんたちには、ブドウの実の切り離し、パック詰め、ラベル張り等で活躍してもらいました。来年もより大きく、おいしいブドウができるように励みます。

また近隣の農家さんたちにも、収益性のある新規作物としてブドウ栽培が広がっていけば、地域活性化にもつながるのでは、と期待しています。

4. シイタケの栽培と里山管理



シイタケの栽培用の原木（クヌギの木）を伐採するために、森町の N さん所有の里山の調査を行いました。調査には春野町の林業家（Arborist）の天野さんにも同行してもらって、いろいろとアドバイスをいただきました。今回の調査を進めていくことで、ただ単に原木用に必要な木を伐採するだけでなく、ある程度長期的な視点から伐採管理計画を作成することが、効果的な里山管理につながる、ということ学びました。将来的には、原木の調達やシイタケ栽培が地域の里山管理や、地域資源の保全や循環につながれば、と考えています。

5. センリョウの栽培

利用者さん家族の M さんが栽培しておられるセンリョウの畑の管理を任せてもらえることになりました。約 600m²の畑に、600 本ぐらいのセンリョウが栽培されています。利用者さんと一緒に、収穫・包装作業を行って、来年のお正月の飾り物用に出荷できるようにと計画しています。



今月のコラム：「6次産業化」について

「6次産業化」とは、一次産業としての農林漁業と、二次産業としての製造業、さらに三次産業としての小売業等の総合的かつ一体的な推進を図り、地域資源を活用した新たな付加価値を生み出す取組み（生産・加工・流通までを一体化する取組み）、とされている。その実現に当たって、生産段階では農林水産物をいかに安定的に確保するか、加工段階では加工に関する技術やノウハウの修得、販売段階では販路をいかに開拓・確保するか、等がクリアすべき課題となる。

具体的な実施例としては、食品加工（ジュース・ジャム・漬物等）、農産物や加工食品の直接販売、農産物を活用したカフェやレストランの経営、農園体験サービスと組み合わせたイベントの開催等がある。

現在風の森ファームでは、これまでの藍の栽培や藍染めの技術を活かして、今後藍染め製品の製造や販売にも取り組んでいこうとしています。そうした6次産業化によって、ユニバーサル農業の生産物にさらに付加価値を付けたり、雇用機会や収入の増加につながるようできれば、と考えています。